

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3170200376		
法人名	株式会社ハピネライフケア		
事業所名	グループホームはあとピア		
所在地	鳥取県米子市久米町200		
自己評価作成日	平成23年2月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1 YNT第10ビル111		
訪問調査日	平成23年3月8日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

1ユニットの小ささを生かせるように、温かく、家庭的な雰囲気が出せるよう、毎日テーブルにお花を飾ったり、ゆっくりとくつろげるようにあえて決まった日課を用意せず、度利用者様と話しながら、毎日の日課がすすめられるようにしています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームは米子市の城跡の麓にあり、桜の花や木々の緑に囲まれている。周囲に民家は少ないが、事業所前に弘法大師様が祀られてあり、地域の方の毎月の参拝にホームの入居者も参加され、交流の場となっている。家庭的な雰囲気を常に意識され、入居者と職員は家族的な関わりで、明るい笑い声の絶えない、温かみのあるホームであった。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で話し合った施設の理念を事務所に掲示して、いつも意識するようにして、理念を共有化しています。	ホーム独自の理念を持ち、新任職員にも配属時にしっかり説明され、全職員で共有できるよう努めている。その人らしく支援することを目標に、個々の生活習慣や生活歴を大事に個別ケアを意識している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通じて、自治会や地域の老人会等との交流をしています。施設前にお大師さんに参拝される方々とも交流しています。	昨年は雨ふりで参加できなかったが、地域の公民館行事に作品展示や参加や保育園児との交流を図っている。また、施設前の月1回のお大師さんの会で交流もしている。	事業所のサンルームを活用して、毎月お大師さん参拝の方を招きご利用者様との交流の機会を作ったり、1事業所では難しいことも法人グループで協力し合い地域との繋がりを広げて行かれることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、地域の方に活用して頂けるよう広報しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度定期開催しており、日々の利用者様の様子を知って頂き、施設運営への助言を頂き行事の立案等に生かしています。	定期的に開催されている。家族の参加や自治会の参加があり現状報告や行事の立案、施設運営の助言を受け、サービス向上に努力している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターの職員さんに運営推進会議に参加してもらい、意見交換をおこない、協力関係を呼びかけています。	運営推進会議には地域包括の職員の参加があり、市職員とは生活保護受給者の相談等で、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者が安心して楽しく過ごせるよう日々の会議で繰り返し話し合い、身体拘束につながるようなケアをしない意識を日々確認しています。	外部研修の参加が年1回あり、報告し共有している。ベッド柵や言葉掛け等も随時管理者を中心に話し合いが行われ、拘束をしないケアに努めている。	職員中心で内部研修等も行われると、より意識が高まり共有できるかと思えます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご利用者様の尊厳を大切にされた接遇を心がけ、言葉使いなど日常の接し方から気をつけるよう職員で話し合っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人を活用されている方はおられないが各職員が成年後見制度を理解し活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人および家族に契約書に基づいて書面にて説明あり、同意を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ISOの是正予防処置、クレーム処理を利用して、ご利用者様からの苦情を聞いたり、意見箱を設けて対応しています。また運営推進会議に参加してもらい、意見の反映に努めています。	面会時に家族から意見を伺う機会として積極的に声掛けをし、頂いた意見は職員で共有し反映に努めている。遠方の家族には電話等でも意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案は、毎月の職員会議の場や、その他随時意見を受け、その内容を反映した運営を行っています。	毎月の職員会議で、職員の意見や提案を聞いている。また毎月ケア目標を定め、翌月には評価を行い、全職員で取り組んでいる。管理者は職員と日々コミュニケーションを図り、随時意見を聴取している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パート職員の準社員への登用制度を人事評価制度と連携させて実施するなどの取り組みを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ISOの教育計画に基づき、定期的な研修を実施しています。外部研修などの機会をできるだけ活用し、研修を受けた職員の伝達講習を必ずおこない、研修内容を共有できるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会が実施している「相互研修」に参加し他の施設の取り組みから学ぶ機会を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネから情報を頂くとともに、ご本人のお話を聞かせてもらう中で、その人らしさややりたいことなど把握するよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面接で、本人および家族の思いを十分に聞き、不安を解消できるように取り組んでいます。入居に至るまでの家族の労を労い、介護の課題を明らかにして、家族の思いや希望を共有しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご自身がイメージする自分らしい生活が送れる様子を求めておられるのかをきちんと捕らえ、それに応えるサービスが提供できるよう心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日々、ご利用者様から学ばせていただく姿勢と視点を大切にしています。ご本人のやりたいこと、お出来になることを大切に、ご自身の役割が持てるように働きかけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の通信をお届けするときに、日々のご様子を報告したり、面会時や電話連絡時にもこまめに家族さんと話ができるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室に愛着のあるものを持ち込んでもらうよう家族にお願いしたり、機会があれば、外泊の受け入れもお願いしています。また、知人や家族さんの訪問も積極的に呼びかけています。	外出の要望があれば対応できるよう職員で話し合いを持ち実現に向けて支援している。電話や絵手紙などつながりが継続できるよう支援している。家族には「キラキラ新聞」で近況をお伝えするなど努力されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士のつながりを大切にして、できる限り、日常生活の中で、協力や助け合いの場面を作れるように支援しています。職員が間に入ってご利用者様同士がかかりやすくできるように心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退去後も面会に行くなどつながりをもっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でのなるべくお話を聞くよう努力し、ご本人の思いを受け止め、他の職員と共有しています。	なにげない日々の会話を大事にし、聴き取った思いは職員間で共有し支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	併設施設の特徴を生かし、入居前にデイやショートを体験してもらうなど、ご本人に慣れてもらうとともに職員も、ご本人のこれまでの生活層を把握する機会としています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの思いに合った生活をしてもらえるよう、趣味や楽しみを把握してレクリエーションなどに取り組んでいます。また、お出来になることに注目して、その方の能力を考慮して役割をお持ち頂き、達成感を持って頂けるよう支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りや伝達で、各職員の持っている情報を共有して計画の作成に反映できるようにしています。また、日々家族とも話し合えるようにしています。	本人・家族の意向や要望を聞き取り、計画を作成している。毎月のモニタリングと3ヶ月毎の評価で計画は見直されている。	認知症の方をケアするにあたって、その人をよりよく知るためのアセスメントシートの工夫が望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録がサービスの向上につながるよう記入方法を見直して、計画の見直しに活用しやすい工夫をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設の特徴を生かし、行事やレクも希望があれば、参加してもらっています。また、家族さんのご都合がつかない場合は、医療機関への受診や行きつけの美容院への同行も職員で対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に参加いただいている民生委員さん等にご助言頂いていますが、実際に活動にはつながっていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族のご希望を聞きできるだけ対応しています。また、定期的に協力医療機関から、診察に来ていただき、健康管理に役立っています。	協力医が定期・緊急とも対応しておられ適切な医療の支援が行われている。内科以外にも皮膚科や歯科も往診で協力が得られ。健康管理が行われている。また、家族への往診状況等の情報提供もされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の服薬管理などは、はあとピアの看護職員の助言をもらいながら行っています。また、定期往診時には、協力医療機関の看護職員さんにも、健康相談にのっていただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師やソーシャルワーカーさんと連携を取りながら進めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の家族さんの希望を聞き、ここの対応をどのようにするのか、個別に面談し確認を取っています。	経口摂取が困難となったり、継続的な医療が必要となった場合はホームでの対応は難しいと説明されている。随時状況によって家族等と話し合いがもたれ、個別に対応されている。1例看取りの経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日常的に状況把握に努めるとともに、申し送りなどで大事なことはもれなく伝えるようにしています。また、緊急対応の連絡先を事務所に掲示して各職員に徹底しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練をご利用者様と一緒に実施しています。夜間など職員が一人の時もあわてず対応できるよう事務所に緊急時の対応マニュアルを張り常に確認できるようにしている。	夜間想定も含め、消防署立ち会いのもと利用者と共に避難訓練が行われている。備蓄もされている。年末年始の豪雪より、再度対策が検討されている。	運営推進会議でも自治会との連携が提案されており、今後の協力体制の確立が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であるご利用者様のプライドや尊厳を傷つけないよう、日常の言葉使いも職員同士で注意し合っています。	トイレ誘導等もプライバシーに配慮した声掛けがなされていた。家庭的な雰囲気も大切にしながら、尊厳を意識した言葉掛けに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	画一的なスケジュール組ではなく、ご利用者様の希望を聞きながら、行事やレクリエーションなどの企画を実行できるように、お一人お一人のお話を伺うようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員や施設の都合での生活ではなく、本人の希望に沿えるよう、希望を聞いて対応できるよう心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの時も、職員が一方向的に服など用意するのではなく、ご本人の希望を聞きながら、一緒に決めていけるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週土曜日には買い物に出て、各自で好みのものを購入したり、希望のおやつなど伺い、みんなでおやつ作りをして楽しむことをしています。また、外食の機会を持って楽しんでもらっています。茶わんと箸はそれぞれの好みのものを使っています。	毎食ケータリングではあるが、ご飯とみそ汁はホームで作れ、匂いや雰囲気を大切にされている。誕生会等には職員手作りの松花堂弁当にされたり、定期的に外食に出掛けたりと普段と違う楽しみの支援もされている。個々の力に合わせ役割を發揮していただく場面作りもされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に摂食の状況や、水分摂取については、日々記録して状況の把握に努めています。また、食事摂取量も確認して、少ない場合は好きなものを用意するなどの工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについても個別に実施状況を記録して、し忘れのないように援助しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄パターンを記録して、ご本人の状況を把握することによって、事前に声かけや、誘導を行い気持ちいい排泄を支援しています。	個々の排泄パターンを記録し職員が把握することでリハビリパンツから布パンツに替わり排泄の自立に向けた支援が行われている。誘導にも利用者の状態に合わせて無理強くない適切な対応がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取量を考慮したり、食物繊維を多く含む食材をたべてもらうなど、なるべく下剤に頼らないように支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	施設の都合だけで、時間を決めたりせず、できるだけ本人の希望を聞いてはいついただけよう心がけています。入浴以外でも足浴で対応もしています。	夜勤者が一人ということもあり夜間入浴は実施されていないが利用者からの要望もない。日中の時間帯で利用者の希望を聞き柔軟に対応されている。入浴できない方に対しても足浴、清拭等で支援がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングのソファや自分の居室など、思いのままの場所でくつろげるよう、日常的に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、はあとピアの看護職員の援助をうけて、服薬時の注意事項など各職員への申し送りを徹底しています。各五利用者様の服用している薬はファイルに情報を作成して薬効、副作用など理解し、状況に応じた服薬支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人のご希望をできる限り聞き出し、生きがいのある生活が送れるよう、毎月の外食や季節ごとの外出などを工夫して実施しています。また、ご自身の役割を果していただいたときには、初期う		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に企画して外出はしていますが、日常的な外出は、ご希望は少ないです。	毎月のお大師参りや毎週土曜日のスーパーへの買い物、季節のドライブやお出かけ等されている。ホームが3階にあるため、日常的な外出は少ないが、ベランダの菜園に出たりと外を感じて頂く支援がされている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で所持されている方はありません。日常的に買うおやつ程度あずかり、小遣い帳で管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、家族への電話は職員がかけてご本人に取り次ぐなどしています。また、手紙や荷物が届いたときには、お礼の電話やお手紙をかえせるように職員が支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節を感じられる花を常にかざっており、行事の写真やご利用者様の作品など展示しています。また室温などにも気を配り、ゆっくりとくつろげる空間づくりを心がけています。	季節の生花を絶やさず、季節の飾り物、季節の食べ物等で、四季を感じて頂く支援をされている。共有空間は自然と入居者が集まり、笑い声の絶えない温かな雰囲気であった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでのテーブルの位置を工夫したり、ソファを配置して、他の利用者からの視線が気にならない位置を確保するなどの工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の愛直のあるものや、写真を飾るなど、自分の部屋らしい居室づくりを支援しています。	仏壇を持ちこまれたり、家族の写真がたくさん飾られている。利用者からも「自分の好きな時間に家に帰る(部屋)」という言葉があり、居心地良く過ごして頂く支援がなされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新聞や時計、カレンダーなどわかりやすい所において確認しやすいように工夫しています。また季節感が感じられるように花を飾ったり、自分の居室の玄関には、それぞれ違ったシンボルを飾るなどしています。トイレにも表示を大きくかいて、見やすい工夫をして、ご自身で迷わず行けるようにしています。		